

私見創見 Thursday

私が、八戸の大学に赴任し
ちよと10年がたとうとして
いる。親戚も友達もいない土
地に移住してきた、いわゆる
Iターンと呼ばれているもの
だ。引越してきたばかりの

私に「ぜひ、手伝ってほしい」と
声をかけてくれたのが当
時、八戸市まちづくり文化推
進室で芸術環境創造専門員と
して勤務していた大澤苑美さ

ん(現八戸市美術館学芸員)
である。

大澤さんは2011年に八
戸に移住し、八戸市と合併(05
年)した旧南郷村をフィー
ルドに実施していた「南郷ア
ートプロジェクト」を担担され
ていた。アートで地域の魅力
を再発見するアートプロジェ
クトで、地域資源にダンスや
演劇、美術を掛け合わせたプ
ログラムを、地域の方とア
ーティストと一緒に作り上げる
というものであった。このア
ートプロジェクトに出会った
ことで、私の人生が大きく変
わった。

東京にいた頃は、お年寄り
や子ども、地域と関わること
はほとんど無く、アート業界
の中で限られた人だけを相手
に現代アートを制作してい
た。(今でこそ、ワークショップ
ッパおじさん」として知られ
る私ですが、当時は全くと言

南郷アートプロジェクト

「心の中のふるさと」に恩返し



佐貫 巧

八戸学院大短期大学部
幼児保育学科准教授

さぬき・たくみ
1982年、静岡市生まれ。
多摩美大卒、東京芸大
大学院修了。2013年
から現職。14年より八
戸圏域で現代芸術教室
「アートイズ」を主宰
し、アートを通して少
しでも生きやすい世
の中をつくる活動をし
ている。おいらせ町在
住。

つていいほど携わっていなか
った。

最初に関わらせていただい
た企画は、映画つくろう!ハ
トダンス大作戦「鳩祭り」の
8年に1度、鳥が舞い降りる
村の話(13年)。児童数
27人の市立鳩田小学校の子と

もたちと地域の大人たちがダ
ンサーとなり、地域のトピッ
クスや場所から発想したもの
を、ダンスで表現するという
ものである。

私は衣装と小道具を担当
し、40歳の布に絵の具でドリ
ッピングワークショップを行

いながら、子どもたちと一緒
に鳩祭りの衣装を制作した。実
は小学校が統合される可能性
があると聞いていたが、子ど
もたちには告げず、プロジェ
クトを進めていった。

映画を制作する上で、最も
必要不可欠なものは地域の方
々の協力だった。プロジェク
トの説明をする会合に私もス
タッフとして参加させてもら
った。

「私たちがこの鳩田小学校
で育った。今の子どもたちに
何か残してあげたい。ぜひ、
みんなも協力してほしいと、
懸命に協力を仰いでくれた町
内会長の姿が、今でも鮮明に
記憶に残っている。

子どもたちを見守ってくれ
る大人たちが地域にいてくれ
て成り立っているということ
を目の当たりにし、自分の故
郷を思い出して目頭が熱くな
った。

その後、14年に『あなたと
わたし、ワルツ』(市立中野
小学校)、15年に『HOME
SONG』(市立野沢小
学校)の映画が制作され、三
つの小学校が「南郷小学校」
として統合されることになっ
た。

このプロジェクトに関わっ
たことがきっかけで「南郷小
学校」の校章をデザインさせ
てもらった機会を得た。当時小
学生だった女の子が、私の勤
務している大学に入学し、佐
貫ゼミナールの学生として学
びに来てくれているのも、感
慨深いものを感じる。

18年に、現代アート展「イ
ンテンション南郷」(頃巻
沢公民館)、「物語をあつめ

る。なんごうカルタ展」(朝
もやの館)など、さまざま
なプログラムに参加させて
いただいたが、「南郷アート
プロジェクト」は借しめながら
21年に10年の節目をもって幕
を閉じた。

大澤さんは「私の仕事はま
ちを活性化するためのアート
づくりではなく、アートでま
ちを魅力的にする仲間づく
り」と述べていた。「南郷の
まち」を出てのパレードや、
南郷の歴史を拾い、舞台上に
上げて作品にするという、魅力
的でワクワクするような変わ
り種企画をしていた頃が懐か
しい。

現在、南郷商工会60周年記
念として、南郷の魅力を活か
込んだパンフレットに携わっ
ている。微力ではあるが、私
の「心の中のふるさと」であ
る南郷に恩返しをしていき

たい。